名電工高新聞

編集兼発行
名電工高新聞部
印刷所
共生印刷株式会社

生徒諸君の奮起を望む

学校長　後藤　淳

昭和五十一年はたつ（龍・辰）のとして、たつは、雲を呼び・玉を追うといわれ、勢のさかんな如何にも男性的な象徴である。

国内も世界も、社会の情勢は刻々と移り変わり、複雑な様相を示しています。

その中にあって、新たな飛躍をめざす本校にとっても、本年は、意義深い年であるよう期待したいものです。各方面にわたって活躍をみました実績を基礎とし、一段と躍進することを願い、それだけに、生徒諸君の奮起を念願いたします。

昨年度は、一応、校地校舎の施設・設備・移転・拡充をみましたが、更に、本年は足らざるを補ない好ましい学園の整備に、一歩前進いたしたいと考えております。

学習の面において、先生方が、各教科ごとに部会をもち、生徒の実態を把握し内面的にもほり下げた指導目標の作製をめざし、研究会、研究発表会を重ねて、実施の方針を樹立されております。

生徒諸君は、若い情熱を燃やし、先生方と呼応して日々の学習にうち込んでくれるよう期待いたします。

次に、クラブ活動においても、昨年それぞれ活躍の跡を残してくれましたが、新年度には、いっそう練習に精進し、全国ベストエイト通過がひとつでも多くなりますよう期待いたします。

文化方面においても、学校祭を中心として、目覚める運営をし、大きな魅力のある成果をあげ、ひろく校外にも感銘を与えるようなものにしてほしいと思います。

この三月、中国から招請を受け、訪中することになりました吹奏楽部の定期演奏会は、格別盛況裏に終わりましたが、このように、五十一年度は、スポーツ・文化の両面に、いっそうの躍進をするよう心から願ってやみません。

学校生徒会の活動も又、風紀・美化・交通の委員会は始め、学校行事に、全面的な協力をし、運動会・学校祭等に於ては、企画・運営にその力を示し、好ましい生徒会像を実践しました

新年度は、各学級議員から、もり上がる声をとり入れ、より健全な、より自主的な発展をするよう希望するとともに、大きな期待を寄せるものであります。

昭和五十一年度が、学校総ぐるみの躍進の年となりますよう、生徒諸君の奮起を期待します。

施設充実

コンピューターの導入

視聴覚室の整備

国鉄の〝みどりの窓口〟、預金通帳、電力料金の計算等、私たちの日常生活にはコンピュータが多く使用されていますし、都会における最近の超高層ビルディングの設計や日程の計画にもコンピュータが用いられています。情報化時代という言葉がよく使われています。

現代においては、コンピュータはあらゆる分野において必要になっております。本校においても学校当局ならびに関係者のご協力にて、コンピュータが導入されることになりました。ファコム・メイトという教育用コンピュータです。生徒の皆さんコンピュータにも強くなって下さい。

より充実した視聴覚教育を施したいという教育方針が、近年私学全般に急速に盛り上がっている時、本校はそれに魁けて、次のようなな内容のユニークな施設を完成することができた。

映写機は16ミリクセノンアークの新鋭機で、何時でもすぐ使えるようにとの趣旨で、それに対する高価な16ミリフィルムを、工業用に30本も用意できたことは、他校に類がないと思う。

他の映写設備は、8ミリサウンドとオーストライドで、既に国語、社会、理科のスライドフイルムがあるが、更に目下充実中です。

次にステレオ装置一式は、テクニクスの最高級品が奮発された。

そしてカラーテレビは親子各1台に、カラービデオ、スローモーションビデオ、ポータブルビデオとビデオが三種類も用意されたのは、大変ぜいたくと思われるが大いに活用すべきである。

更にこの教室の特色は、電気工学の教卓上実験装置が各種準備されており、映画スライドなどと併用して、いっそう教育効果を高めようという試みである。

旧図書室を利用したため、欠点もあるが、それを補うべく、上手に活用してほしいものである。

整備された視聴覚室

〝創立記念日〟制定

大正元年九月二十日

中区矢場町に、好学の青年を対象として、電気学講習所を設立・認可された。

その反響が思いの外大きく、応募者が多数であったため、改めて、同年十二月二十六日、私立名古屋電気学校として正式の認可を受けた。

爾来六十四年。今日の隆々たる電気学園となった。

この期に、創立記念日を制定することになり、今日の学園の基礎づくりに献身された前学園理事長・本校々長後藤鉀二先生の誕生日とも併せ考え、十一月十三日を創立記念日と制定されたのである。

写真は、先代の胸像の前で、現校長後藤淳先生。

校訓

誠実
勤勉

新任の先生の紹介

本年度ご新任いただいた先生方に、次のようにアンケートをお願いした。

一、最終出身校
二、担任教科名
三、趣味
四、本校生徒の所感
五、本校生徒への希望

教諭　加藤　隆治

一、愛工大・工学部

二、製図

三、音楽・スポーツ・ドライブ

四、生活の中に常識がなく、無気力で自分勝手な生徒が多いように思われる。

五、本校創立以来の教訓であり、六十余年の歴史と伝統の中に、「誠実、勤勉」という言葉がある。この言葉を生活面に取り入れ、広い知識とすぐれた技術の向上を図り、理知的判断力のすぐれた情操豊かな人になってほしい。

教諭　平田　俊之

一、愛工大・工学部

二、電気工学

三、特になし

四、現在の高校生のほとんどに言えることかも知れないが、特に無気力な生徒が目立つようである。

五、新聞やテレビ・雑誌などで、高校生が犯罪を犯したという見出しをよく見かけるようになった。

しかし高校生といえば、もう立派に善悪の判断のつく年頃であるはずである。自分自身で「良し」と判断したならば、それに向かってまっすぐに進んでほしいものである。そして、今一度「学生の本分とは何か。」という問題について考え直してほしい。

教諭　藤井　寛

一、愛知県第一師範学校

二、社会科・国語科。

三、特になし。

四、大多数の生徒が、まじめに日々の学習をしている真摯な態度に、大変好感を持ちました。ただ一部の生徒の中に、授業を投げてしまっているのではないかと思われるような態度のものがいることは非常に残念に思います。

五、クラブ活動などで、成績をあげているクラブの部員などは、そうでもないと思いますが、全般的にややや積極さが見られないように思います。特に担当しているクラスの学習面で、その感を深くしています。再び還らぬ青春時代の大切な時間です、どしどし積極的な学習を希望したいと思います。

教諭　森　龍三

一、皇学館大学文学部

二、現代国語

三、音楽鑑賞・旅行など

四・五、今、君は何を考えているのか—無事卒業して大学に入る—これでよいのであろうか。人間とは、与えられた軌道を惰性のみで進むだけでよいのか……

何らかの目標を抱いて、それに向って日夜邁進することである。その目標は各々異なっているが、幾多の過程を経て究極同一となる。君にはその志と目標がない。いや目標が何であるかが定かでないのかも……

自分に問い、他に問うという人間本来の姿勢を維持し、切磋琢磨することが自身をも、更に社会全体・人類の輝かしい未来をも創造する原動力となりうるのである。

故に、人間とは一体何であるかを、今一度省みる必要があるのではなかろうか。

論説　目覚めよ

名電工高三千の生徒が、意気を合わせ楽しく学業にうちこんだら、日本一の学園になるに違いない—こんな気持ちをもち、それを実現させることは不可能なのだろうか。

ひと頃、高校生の間に、三無主義などということばが広がったことがあったが、それなりに高校生自身の在り方に疑問を感じ、個人の欲望と理想社会の追求に迷った人の苦しみではなかったかと思う。

三無のうちで、特に、無気力さを指摘される場合が多い。若さと情熱を持ちながら、いたずらに、そのエネルギーを浪費して、溌剌とした学校生活が見られないということなのだ。

わが名電工高の諸君の実態—少なくとも表面的に見受けられる姿は、やはり、この無気力さではないだろうか。

何かひとり合点し、うすっぺらな〝かっこ好さ〟に気をとられ、貴い青春の時を為すこともなく過ごしてしまっている。学校は遊びの場でしかなく、話題も常に遊びでしかない。

この無気力・無目的な生活様式を改めることができないのだろうか。

その原因の一つは、挫折感だと思う。家庭での過保護にならされて、自己の確立が出来ず何とかなるという安易さに堕し、そして、俺は駄目なんだという卑屈感に自己を埋没して、男の意地を失なっていることなのだ。

事を成すというのは、一朝にしてできるものではない。失敗の積み重ねによって道が開けることを、自分のはだを通して知らねばならない。苦しさ恥ずかしさを乗り越えて、道を切り開くところに、男の生き方があるのだと気付いてもらいたいものである。

その次に、悪いのは相手であって自分ではないという自分勝手な考え方である。社会の一員として生きねばならぬ人間、絵に描かれたような理想社会ではない。従って、自己防衛的な思考・態度は、ある限度のもとで許されるべきであろう。しかし、自分は、己の意のまま自由勝手に振るまい相手にそれを許さない、でなければ相手が悪いのだという論理で、己の欠点・弱点を覆ひ隠そうというのだから始末が悪いのだ。

だから、人の忠告・注意が気にくわない。ただ感情的に反抗することしか知らない。そこには反省は無く勿論向上など微塵も存在しない。これでは、まことに悲しいではないか。

第三の原因は、積極さがないことなのだ。進んで先輩や先生の教えを学ぼう受け容れようという態度に欠けていることなのだ。

学習において、俺には出来ないわからないの一点張りで、何とかわかろうという努力がみられない。

極端な表現を許されるなら、何ひとつわかっていないのに謙虚に、そのひとつひとつを理解し、発展させようという前向きの気力を持たないということなのである。

かなりきびしい表現を続けてきたが、ほんとうのところ、この三つのことに気付かないでいる生徒は一人も居ないのではない。

三千のわが名電の生徒はみんな承知しているのだ。それがどうして改まらないのか。そこを諸君の胸に聞いてみたい。

社会は日々変化している—昨日は今日でない。

その変化する社会の中に、埋没されてしまってよい筈は無い。だれひとり、そうあってはならないのだ。

名電工高三千の諸君。目を覚まそう。

卒業を前にして

E3A　**長江　満利**

高校生活三ヵ年が今過ぎ去ろうとしている。いろいろ振り返ってみると、一番最初に思い起こされるのは、やはり入学時の事であろう。入学式という緊張の中にも「高校生になったのだから何かが、いままでと変わるであろう。」という期待感があった。しかし一年生も終わりに近づくと、中学校の延長といった感じになってしまった。

これは私がいかに努力せず、だらだらと惰性で過ごしてきた証拠である。このように三年間目標らしいものを持ち得なかったから、方向性のないしつぽの切れた凧のようであった。それに比べると、クラブの人たちは、羨ましい。運動部の人は大きな大会。文化部の人はコンクール。と目標があるから。そして、そのような公の場所へ出る時の父兄・先生・生徒・そして一般の人達の心からの拍手。でも、よく考えるとこのようにしてくれるのだが、なぜ日頃は、なんとなく冷視されているように思える。これは私の被害妄想かもしれないが、「火のない所に煙は立たない」ということわざもある。たしかに、私達は少々はめをはずすこともある。でも若者だからそれぐらい元気であった方が、日本の未来をしょってたつのだからいいのではないか。と思ってしまう。これは、私の過保護的感情であるのか。それはともかくとしてやはり嫌なうわさなどを聞くと、気落ちがする。だから、生徒・先生・そして学校関係者が、もっとこの問題を重要視して、一丸となって、対処していかなければいけない。例えば、今の学校生活以上に、生徒・先生間の親密感の向上に努めてはどうだろう。それには学内の勉強もよいが、やはり運動が一番であると私は考える。しかし、我校の運動場のないのが、道をふさぐ大岩の如く立ちはだかる。これをなんとかしてほしい。土地がないのは、よくわかるが、今私達はそれが切実な問題となっているのだ。親密感の問題についてはもう一つある。生徒会である。これは、生徒の問題がじかに伝わるのだから先生と生徒のためにも、もっと活発に動くように先生の指導をお願いがしたい。卒業にあたって私は、こう考える。

M3A　**金村　広志**

三年前この学校に入学して来た当時のことが、つい昨日のように思われる。

当時の印象というと目に写るすべてのことに、驚き、興味を覚えた。

生徒の数からしても、またそのほとんどが男生徒、その中の自分が小さく思われたものです。それに学校行事或はクラブ活動、更に機械実習で扱う機械等、どれを見ても今までにない一味違った感じを受けた。

そうした生活環境の中で生活していく自分自身に不安と未来への希望の入りまじった感じ、一日一日をただ夢中で過ごして来たことを覚えています。

人生にとって一番たいせつな時間といわれる高校生活を、どのように過ごし考えてきたか、ここ卒業にあたって考えてみた。学校ではどうであったか、そして学校をはなれた。自由時間をいかに過ごしてきたかなど、考えてみると、しっぱいや悩み、苦い思い出などいろいろと思い出される。これらの経験をいかし、一度しかない人生を悔い少なく生きるようにしたい。

まず入学の際あまりにも、高校に対する期待や目的を持たずに、ただ何となく入学してきたという人が多くなってきた。そこでもっと高校に対する自分の考えをはっきり持つ。また私たちは感受性、思考力、創造力などあらゆる可能性に満ちている反面、自己満足、劣等感、優越感、孤独感などの感情的反応を引き起し、それによりいろいろな問題が起きてくる、これらの問題を確実に解決し、自分にとってよりよい方向に向かって行くように努力し、学生として責任ある行動を自信を持って行う。

特別改まって学校へ希望することは有りませんが、現在の学校での生活を見て、生徒にまとまりが欠けていると思う。集団生活の上において非常に重要なことですし、今すぐどうなるものではありませんが、先生方、学校側の暖かい指導のもとで、是非まとまりある学校生活ができるようにしてほしいものである。

R3A　**朱宮　正治**

どんな学校だろうか。どんな先生に習うのだろうか。どんなやつが来るのだろうか。などとだれもが最初に思うことではないだろうか。おれもそうであった。そうして、自分かってにこんな学校で、こんな先生に、そしてこんなやつばっかりだといいがと、思って通い始めたが、そんな期待も時間がたつにつれて崩れた。もう一つ。中学と比べてもっと自由になれると思っていたが、逆に規則、規則で縛られた。しかしこのことは、心の一番不安な時期に自分だけの力でおさえれないから、外からの規制はいるなあと思ったこともある。しかし今思い出すと、期待はずれの事が多かったようである。

おれは、入学してすぐクラブにはいった。そして一つの目標を持ちその目標に向かって努力をしてきた。そして、その目標を達成することができた。今、このことをふりかえってみて、たとえ結果はどうであったとしても、ある目標に向かって努力をしてきた自分をみて満足である。そしてこのことはおれの思い出として一生きざみこまれることはまちがいないだろう。

今までの悪評。それによってどうせ悪い評判だからそれならちょっとぐらいという気持ちが強いようだ。それではいけない。逆に今までは悪かったから、これからは、という気持ちをもってもらいたい。それと、名電工の生徒である自覚と、高校生なら高校生らしい態度、行動。それと自分のした行動に対する責任をしっかり持ってほしい。

回りから悪くみられてそんをするのはだれか、自分自身ではないか。何年後かしらないが一人前の社会人となって、あそこの学校の生徒はといわれて恥かしい思いをしなくてもいいように、考えた行動をとってもらいたい。

勉強をするにも、クラブをするにも、設備の充実を計ってほしい。運動場を作れとか、プールを作れとか校舎のとそうを良くしろとかなどじゃなくもっと中のこと、教室の中が暗いから電燈の数をふやしてほしいし、なんといっても冬の暖房は設置してほしい。ちょっとぐらい多くのお金をとられてもガタガタいって勉強するよりよっぽどいい。

G3A　**中野　善仁**

名電工の入学式の日入学式独得のなにかしら言いようのない不安めいた期待というものをもったおぼえがあります。ここで三年間勉強して、大学へ行くんだという意気込みがあったことでした。

今三年間の軌跡を振り返ってみると、最初の目標から、時を経るにしたがって離れて行く自分のあせりと、あまりにもはやく過ぎた月日に対する後悔と、空虚の努力の中でとり残されている自分を感じてきただけでした。

やはり後に残る思い出[illegible]いうものは楽しか[illegible]はほとんど残[illegible]いのだとい[illegible]入試を間近に[illegible]なってわか[illegible]します。

名電工に[illegible]の学校はとて[illegible]いと聞いてい[illegible]して、たしか[illegible]ましたが、[illegible]ったことは、[illegible]も熱心に授[illegible]ということ[illegible]を親身にな[illegible]くれること[illegible]

私たちは[illegible]方や母校の[illegible]の評価を少[illegible]力をしなけれ[illegible]思う。その[illegible]に欠けている[illegible]ものを持つべ[illegible]に落ちている[illegible]いことや、廊[illegible]くことなどは[illegible]いために起き[illegible]ですから、本[illegible]ることに誇り[illegible]になる第一歩[illegible]て名電工独得[illegible]限愛校心を持[illegible]のぞいてほし[illegible]

又、いい意[illegible]打ちこむとい[illegible]なことです。[illegible]ラブにうちこ[illegible]すばらしく、[illegible]です、ですか[illegible]さんもいい意[illegible]ちこめる何か[illegible]いと思いま[illegible]

ぼくのもう[illegible]ることは、種[illegible]の何かにつけ[illegible]なければなら[illegible]非力だと思わ[illegible]

具体的な全[illegible]なってうち込[illegible]のをまとめ、[illegible]を持った活動[illegible]たいものです[illegible]

先輩の職場

トヨタ自工訪問

昨年末、トヨタ自工の職場を訪問し、同会社の機械部班長都築功（38年電気科卒）堤工場組立課勤務の渡部均（41年電気科卒）両先輩に労をわずらわして、意見を拝聴した。

トヨタ自工の社員は、大きく技術職と生産職に分けられ、高校卒業者は主に生産職に従事するとのこと。

高卒就職者は、入社後六カ月職業人としての心構え・態度・基礎知識を主とした社員教育を受ける。

一般に、最近の高卒者は、基本的なものが身についておらず、社会人・職業人としての心構え、態度が不十分で、自己に対する厳しさに欠けていることを強調された。

学校での学習が真剣でなく、だらけた気分で漫然と過ごしていることが、習慣となってしまっているのではないかと、大いに反省を求められた。

名電工高の卒業者は、千人近くあり、この三月にも26人入社するとのこと。

[illegible]

ある学級日誌から

[illegible]

俳句クラブ作品

[illegible]

シキシマパン

クラブ
クラスの会合に!!

生クリームケーキ、
菓子袋詰、色々お値
打に予約承ります。

☎ 711-4434

合資会社　紅扇

ヨギソのパン

ヨギソ製菓株式会社
名古屋市昭和区川名本町1の10
TEL (751) 2858
2859

各種板硝子・鏡
井伊ガラス
井伊ガラス

健康の環を世界に
広げる森永乳業……

春です毎日牛乳を飲んで
立派な身体を作りましょう

森永牛乳
玉木販売所
千種区上野町五の六五
TEL (711) 2235

吹奏楽部　中国親善訪問

三年連続全日本出場

吹奏楽部

例年多彩な活動を続けている吹奏楽部は、本年は又、部の歴史はじまって以来、最大の多忙の年となった。

◆三年連続全日本出場なる

愛知県コンクール、東海大会と、それぞれ金賞にて代表権を獲得し、十月二十六日、札幌市厚生年金会館ホールに於いて開催された「全日本吹奏楽コンクール」に駒を進めた。期待に反し、銀賞という不本意な成績ではあったが、自由曲「トッカータとフーガ」、「ニ短調」は可成りの好演で、CBSソニーより発売された「日本の吹奏楽75年優秀編」のカセットテープに収録される名誉を得た。

◆好評だった定期演奏会

去る一月十五日、市民会館大ホールに、二五〇〇名という聴衆を集めて、第十一回の定期演奏会を開催した。この演奏会は毎春一月に行なうもので、本年も、クラシックの編曲、ポピュラー、ステージドリル等、例年通りの内容で行った。なお後半は、先に正式に決定した訪中の際の予定曲目を「訪中記念演奏」として披露し、超満員の聴衆から、暖かい声援をうけた。

社団法人
全日本吹奏楽連盟

全日本吹奏楽コンクールに於ける演奏

◆三月訪中決定

日中友好の〝音楽使節〟として、三月初め北京、上海などを訪れることが正式に決定した。今回のように単独の学校で、大型の音楽使節が訪中するのは初めてであり、その使命は重大なものがある。卓球をはじめとして、本学園は、中国とは真に深い友好関係にあることは衆知のことであるが。吹奏楽部としても、日中卓球、日中バトミントン大会の開会式等を通じ、中国々歌、中国の行進曲の吹奏等、友好の任の一端を担って来ている。

演奏予定の曲目は、中国の人々に理解されやすい様な、日本の民揺や、新しく作られた、団伊政磨作曲の「べっぷマラソン行進曲」等、日本の曲。日本の曲と中国の人民愛唱歌をバックにしたステージドリル。中国のピアノ協奏曲「黄河」よりⅠⅡⅣ楽章、革命バレー「白毛女」より数曲をえらんで編曲した、吹奏楽組曲「白毛女」等である。

吹奏楽部長であり指導者である松井先生は演奏もさることながら、若い国の息吹きに、じかにふれることの意義も大きく、農村、人民公社、学校等訪問し、出来るだけ、同世代の人達と交歓したいと思う。先づ日中友好のかけ橋となるべく、真摯な態度に終始し訪問の成果を十二分に果すべく、目下練習、準備中である。と目を輝かせて、決意をのべておられる。

五十一年を目指して

卓球部

第30回国民体育大会の卓球競技は、三重県桑名市にある東洋ベアリング工場の体育館で、10月27日から31日まで行なわれました。

本校より、G3E石井克則、E2H宮田誠、E2D山崎正徳の三君が、県代表として参加しました。成績は次の通りです。

○予選リーグ
愛知　3—1　岡山
愛知　3—0　熊本
○準々決勝
愛知　0—3　茨城

第15回東海卓球選手権大会は、12月20・21日の両日浜松市体育館で行なわれました。結果は次の様です。

○ジュニア男子
E2宮田2—0E2池村
E2山崎2—0E2赤塚
E2西海知2—1E2高橋
E2浅井2—0高須（桜ヶ丘）
○同　準決勝
宮田　2—0　山崎
西海知2—1　浅井
○同　決勝
西海知2—0　宮田

本年は、全国大会においては、あまり成績が良くなかったので、目下日々猛練習をしているが、先輩諸氏の残した伝統ある卓球部の記録をけがさないように、頑張りたいと思っている。

東海選手権を逸す

バスケットボール部

全国総体以後一年二年を主体に新チームを編成し、新人戦の全国選抜及び来年度の全国総体を目標に練習に励んでいる。

八月以降の試合は、一年生大会・秋期選手権・私学祭に優勝し、愛知選手権第二位、東海選手権では一回戦で敗れた。成績は次の通りです。

一年生大会	名電工	164	72—14	92—24	36	春日井商
	名電工	142	68—6	74—13	19	瀬戸窯業
決勝トーナメント一回戦	名電工	130	50—14	80—14	28	半田高
	〃	156	54—22	102—14	36	知多高
	〃	94	48—31	46—32	63	名城付高
決勝戦	名電工	124	52—9	72—27	36	惟信高
秋期選手権	名電工	107	46—36	61—23	59	明和
	名電工	71	37—10	34—14	24	東海工
	〃	133	65—24	68—19	24	東邦高
	〃	128	70—34	58—38		名城大付高
県大会	名電工	102	54—35	48—30	65	半田高
	〃	121	66—22	55—28	50	安城
	〃	126	50—31	76—30	61	桜ヶ丘
決勝戦	名電工	117	57—38	60—38	76	名城大付高
私学祭	名電工	202	130—26	72—11	37	名二工
	〃	102	51—19	51—9	28	桜ヶ丘
	名電工	150	85—16	65—20	36	名古屋高
決勝戦	名電工	106	52—24	54—25	49	名城大付高
愛知選手権（兼東海選手権予選）一回戦	名電工	102	41—31	61—39	70	南山大
二回戦	名電工	70	37—31	33—34	65	鯱クラブ
決勝戦	名電工	69	36—41	33—41	82	愛知教員
東海選手権　一回戦	名電工	63	30—43	33—44	87	岐阜教員

県駅伝に二位

陸上部

円盤投げの丹羽君

◎丹羽君国体で第3位高校男子円盤投（50米22）
◎渥美半島駅伝大会は3年連続5度目の優勝

第30回国民体育大会は10月27日から30日まで、三重県伊勢市県営陸上競技場で行われ、本校からはM3D丹羽豊彦、G2A近藤雅洋、E1F伊藤好郎の3名が出場し、丹羽君が円盤投で50米22の自己新記録で第3位に入賞。一年生の伊藤君は、砲丸投で第7位、近藤君は400米に出場51秒3で走り予選4着で措しくも失格、近藤、伊藤君の両名は今年度が大いに期待される。

11月2日・3日と東京都国立競技場で行なわれた第6回全日本ジュニアー陸上競技大会において丹羽君が円盤投に第4位、近藤君が400米で第5位に入賞した。

駅伝競走大会においては活躍が目ざましく、第29回渥美半島駅伝大会に3年連続5度目の優勝を遂げ、第26回全国高校駅伝大会愛知県予選会にて2時間16分01秒という好記録で第2位。

第24回東海高校駅伝大会は、11月30日静岡県浜松市で行なわれ、各県からの代表6チーム合計24チームが集まり、健脚を競い、本校は2年生の寺田君がアンカーで4人を抜き第4位に入賞した。

◎愛知県駅伝大会

総合2位2時間16分01秒

1区	菊地順二	32分42秒
2区	磯貝喜与二	8分44秒
3区	野村忠利	26分09秒
4区	水谷英典	26分36秒
5区	落合政幸	9分26秒
6区	久野稔夫	16分27秒
7区	寺田光宏	15分57秒

◎東海高校駅伝大会

1位	中京高	（愛知）
2位	磐田農	（静岡）
3位	中京商	（岐阜）
4位	名電工	（愛知）
5位	宇治山田商	（三重）
6位	中遠工	（静岡）

◎渥美半島駅伝大会

1区	菊地順二	31分04秒
2区	寺田光宏	26分36秒
3区	水谷英典	26分17秒
4区	野村忠利	25分42秒
5区	磯貝喜与二	27分34秒

野球部の一日

八月八日以降、新人戦績は二十九戦十九勝九負一分。八月末の名古屋地区予選で炎暑の中で一勝一敗で、再々試合、やっと県大会に出場と出足から難問をかかえてのスタートであった。しかし一戦毎に試合運びも身について来たので来春からが楽しみ。

来春以後にかけて

十一月に入って本格的に冬期強化訓練に専念。先ず走り足腰の錬磨、腕力の増強と数々の細部にわたる方法で、冬の夜風を受け灯下での特訓を続ける我々の夢は甲子園。そこで八草の合宿所生活の或る一日を紹介してみよう。

午前六時　起床

外気温は零下二度、室内で四度、真暗である。

六時十分、掛け足体操グランド一周三百米を五周。

六時二十五分、点呼灯下でないと人の顔は見えず、息も白く寒さが一そう強く感じられる。

六時三十分　朝食

食後後かたづけと宿舎の内外清掃。

七時三十分　バス乗車

車内ではハンドグリップの音がつづく中で、各自の目は予習復習のノートをみつめる。バスレーンを利用し学校到着、各自教室に分散当番だけ残留バスの清掃。

これから三時五分まで授業。

午後寮に帰ってから夕食まで、それから九時頃まで練習と特訓の日々が続くのである。

貧者の一灯

教頭　古田和義

新春一月六日と二月八日、家族と共に愛知県赤十字血液センター（市役所裏）に献血のため訪れた。

昭和四十七年八月を第一回に、年一回献血し、今年で六回目である。家内も昨年いっしょに献血しているので、我が家で千四百ccの血液が世の中の重傷病者の手術治療に役立っていることと思う。

我が家も、社会の一員として、社会奉仕に「貧者の一灯」ともなれば幸いである。最初はなにか怖いような不安な気持ちであった。

輸血管の先の採血針を腕の血管に刺す時、看護婦さんが「ごめんなさいね」と一言いう気持ちはよくわかる。「チクッ」として、あとはゆっくり三つ数えながら拳を握る。四分位して二百cc（フランスでは四百cc）の採血が終わって、再び献血手帳が渡される。

献血できる人は、年令16才から64才まで、体重男45kg・女40kg以上、最高血圧百mm以上となっており、一年に六回以内の採血と限られている。

日本の保存血液の必要量は年60万ℓ、一人一回二百cc（mℓ）だから三百万人分の量になる。献血該当者が四千万人いるので、十三人に一人が、年一回献血すれば必要量となる。以前は「献血に協力してやろう」と言っていたが今では「自分の健康管理のため、年三・四回健康に感謝して献血する」という積極的な考え方に変わってきているとの事である。

本校の生徒諸君の中にも、すでに献血に協力し、身をもって社会奉仕をしている人が多くいると聞いて頼もしく思う。高校生として立派な事をしていると思う。歩行者やマイカーの自分に災害病魔はいつふりかかってくるかわからない。家族友人など身近なところにも不慮の事故がおきないうちに、みんなで助け合い、明るい健康な暮しを守るためにも献血に協力したいと思う。血液型、肝機能等の検査をして、すべてに合格した血液のみを病院に供給しているとの事。献血者の健康を守るため、又献血者の善意に報いるため、血液を検査して、異常があれば通知して病院で健康診断をされ病気の早期発見と予防治療に役立てていただくようにしているとの事である。

願わくば、小さな蕾がいつの日か美しく花開き幸せの実となって、人の心の中に美しく育ち、尊い生命に愛の一灯にならんことを。

旅の記憶

教諭　菅井善幸

学生時代私はよく旅に出た。私の貧しい思い出のなかに生涯忘れられないであろういくつかの旅がある。

それはなぜか決まってひとり旅の事が多い。なんらの奇をもたない谷間の旅、穏やかな春の山里の旅、落日を追いつつも急がない旅に道連れのないことを欲するようになった。

利尻・礼文島を訪れた時もひとり旅であった。礼文島から眺める早期の利尻山は、ほんのただ今、海の底から湧いたかのように荘厳な光景であった。

それは昨日苦労して登ったことも忘れさせてくれた。私はこの山容によって今まで考えてきたことのいかに価値なく、私のやってきた行為のいかに低いものであったかを感じさせられた。

そして、私の憧れの対象となり、私の感情の内に深く織り込まれるようになった。その思い出と同時に、「さいはての島」と言われているこの島々を訪ねて、私は満たされないものが心に残るのを禁じえなかった。

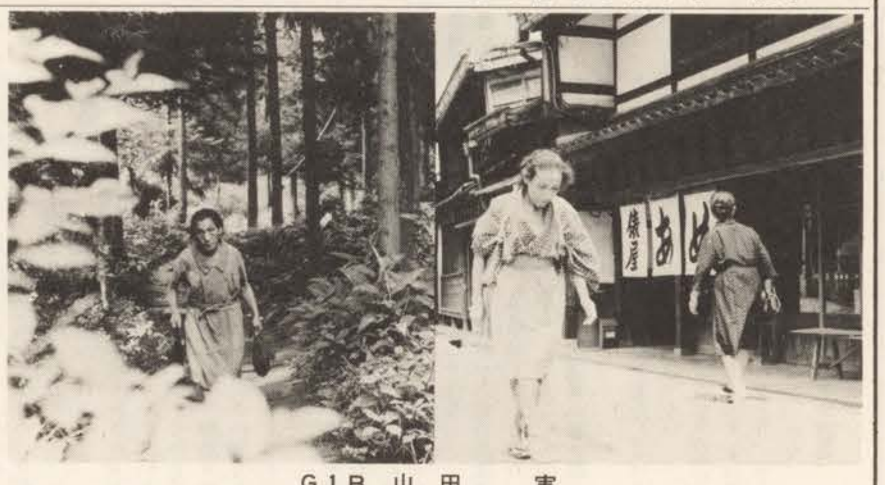
一家の暮しを肩にかけ、重い漁具を押す漁夫の苦悩と喜びが、旅人の私に理解できるであろうか。小さな子供が、浜で昆布を干しているその姿を横目に見ながら、都会から来た若者の車が砂ボコリをたてて走り去って行く。そして歩いている私でさえ見落としそうな小さな立看板が、「昆布にホコリがかかります。スピードを落して走って下さい」と訴えていた。

旅に出る時には、単なる滞在者としてではなく、その土地での生活者でありたい等と思いながら彷徨を続けてきたが、私にとって、やはり、旅はあそびの場所にすぎなかったようだ。洋上に浮かんだ利尻山、そして足の踏み場のないような高山植物の群落の礼文島を想い出すとき私はあの立看板を今でも忘れることはできない。

学校祭　優秀作品について

写真の部

評　杉浦先生



G1B　山田　実

暖簾　（金沢にて）

高度成長のかげにひっそりと昔の面影を残している古い家の情景である。老人二人と古い民家の組合わせは、これといった新しさは無いが少しアンダー気味で、広角レンズで奥行を深く遠近感を出し、空間のとり方、人間と軒下の暖簾の配置にも作者の神経が細かく行き届いている点にこの写真を見る人に良さが伝わって来る。しかし、シャッターチャンスを強く出しすぎて、こじんまりと纏めすぎて変化と動きが無く、右側格子にポイントも無く空白となり重要個所が左半分に集まりすぎた点に弱点がある。

（データ）
ミノルタスーパーSRT・ロッコール35゜・ネオパンSS・絞りF5.6・125分の1秒

老婆　（七尾にて）

作者が田舎の山林で出会ったひとりの老婆をファインダーの真中に置き手前の草を暈すことで空間を生かし構図が旨くまとまっている。

老婆の表情もカメラを意識せず右手の傘と左手の袋も自然である。フィルム・レンズの選択・光線の使い方も良い。平凡ではあるがストレートな描写だけに非常に見やすい。しかし写真下の草の暈しが多すぎ道がはっきりせず、もう少し背景描写に気を配る必要がある。

（データ）
ミノルタスーパーSRT・ロッコールズーム・Y2・絞りF5.6・250分の1秒・ネオパンSSS

詩

1A　深谷清雅

青い空にうかぶ白い雲
風にふかれて
自由に空をかけめぐる
あの雲は
これからどこへ行くのだろう
雨になって
消えてしまうのだろうか
それとも
遠くの国まで旅するのだろうか
雲は
たくさんの町を通ってきて
いろいろなものを見てきただろう
その雲にのって
ぼくは遠くへ旅したい

僕の手

1年　丹羽敏

冬の空を
破り捨てました
とても
冷たかったけれど
思い切って
破りました
すると
春の日射しが
愛を
地中深く沈めてしまいました
でも
僕の手だけは
まだ
凍っています

絵画の部

評　井上太先生

「山湖」　E3B　塚本昌之

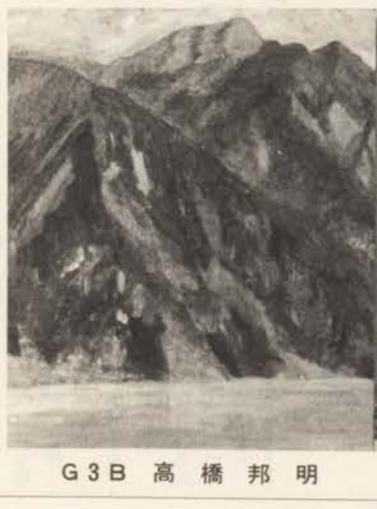
山の重なりを描くことはむずかしい。その上、山の持つ雄大さとか、きびしさの表現も、ある程度描けている。

色彩は、全体的に、夏山らしくして無難である。欲を言えば、もう少し描き込んで見てはどうか。

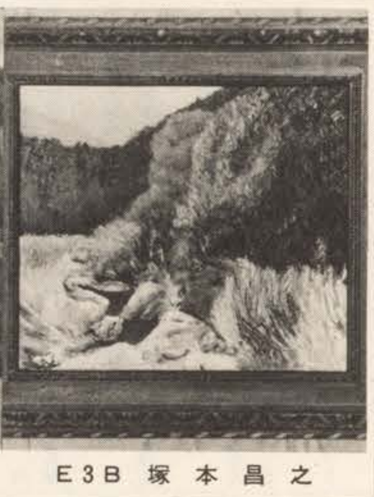
「風景」　G3B　高橋邦明

此の絵は、余り人が気付かないような場所で描いてある。そして、絵としての条件を備えているのは、見事である。追究を重ねて、重厚な感じも立派である。

ただ一つの欠点は、近景、中景に比較して、遠景の調子が強すぎることである。此の点に注意すると、一層、全体としてよくなると思う。



G3B　高橋邦明



E3B　塚本昌之

俳句の部

E1F　末吉春雄
○赤々と燃えて散りゆくかえでかな

R1A　鳥井伸稔
○雪ふりてあたり美しすずめかな

G1A　石黒正規
○夕立や軒にかけこむ人のあり

G1A　拝郷一郎
○夕空を赤く染めたる雲のおび

G1C　広田哲
○静けさや人こいしげに秋の海

E2A　宇都宮秀市
○耳すましすず虫きくや枕もと

E2G　呉田聡
○木枯や寂しく歩く女一人

E2J　藤沢誠一
○秋雨や誤差少しあり花時計

M2E　富田雅彦
○一雨に深まり覚ゆけさの秋

G2D　曽我進
○夕焼に手をかざしてや秋の風

E3A　杉本正一
○川の瀬に銀鱗光りあゆ一つ

E3A　長江満利
○極楽の夢誘いてや蓮の花

E3E　加藤幸男
○海に舟浮かべて島の花火見る

E3F　服部秀樹
○壁の町はだにしみ入る冬の雨

M3A　柴垣恒一
○夕焼に赤[illegible]町の秋

M3C　山本芳弘
○くぐりたる[illegible]すだれ

M3C　片岡正喜
○星一つ流れ[illegible]空

G3A　小池康弘
○あかあかと[illegible]暑さかな

R3A　井上幸広
○秋風に消[illegible]の声

書道の部

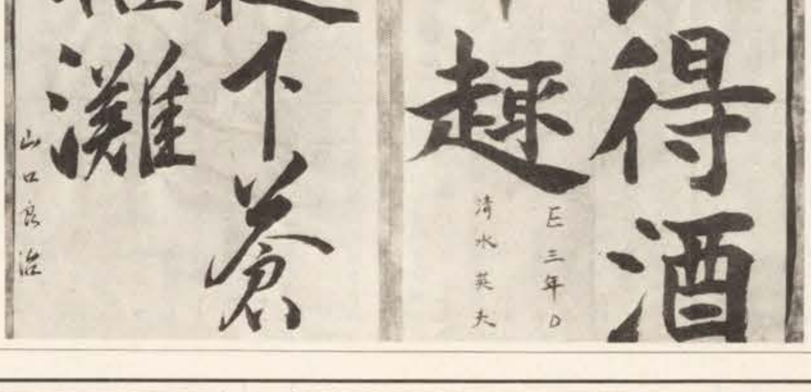
評　井上先生

本年度の文化祭の書道作品、凡そ三百点にも及びました。その選にあたり、次ぎのような基準を心に描きながら、選別をしました。

第一に、上手下手を抜きにして、まじめに真剣になって書かれているかどうか、作品に全精神を打ちこんでいるかを見抜くようにしました。

第二に、学年名前をていねいに書いているかどうか、ものごとは最後が大事であります。名前の最後の字までゆるみがないかどうかに注意しました。

第三に、書はなんといっても美しく書けていなければなりません。清水君の力強さ、山口君の伸び伸びとしたところや字配りをよく観賞して下さい。



編集後記

○目覚めよ。胸を開け。名電工の伝統と誇りを築き上げるには、一人一人がどうしたらよいか。誰もが知らないのではない。

○昇龍の年。躍進の年に、自分の長所を伸ばしたいものだ。

○名電学園の歴史に、また新しい一頁が書き加えられることになった。吹奏楽部の訪中である。春、中国大陸に、親睦の音が鳴るのだ。

○楽しいクラブ活動をしてみたい人は無いのだろうか。情熱をもって新聞部の仕事をしてもらいたい。

新聞部員募集中
○希望者は部室まで○

カラープリント
○免許証用撮影
○2分間写真もどうぞ
純正仕上（40円）
名電高生格安!!
カメラクレヂット　3回〜20回払い
若水カメラ
名電工前 711−1869

キハラ製図器
三角スケール（竹・セル張り）
曲線定規
T型定規
その他製図用具一式
コクヨノート一式
名古屋電気工業高等学校御指定
大附通商株式会社
TEL（231）1744・3354

辞書・参考書の専門店
電気学園指定書店
正友館書店
千種区鏡池通2−13　城山中学校南
TEL（751）2717